

自立活動の指導

特別支援学校では、子どもたちが障害による学習上・生活上の困難を改善するための教育として「自立活動」の指導領域が設けられています。

自立活動の指導には、**健康の保持・心理的な安定・人間関係の形成・環境の把握・身体の動き・コミュニケーション**の要素があり、宇治支援学校においても、子どもたちの実態に応じて必要な要素を取り入れた自立活動の指導を行っています。

今回の学校だよりでは、肢体不自由のある児童の「からだの時間」における自立活動の学習の様子を紹介したいと思います。



主な自立活動の要素（身体の動き）

「からだの時間」では、色々な遊具を使って、坂道の上下り・段差の乗り降りといった、身体の動きを学習しています。低い段差からはじめたトランポリンへの乗り移りは、今では20cmほどの段差をヒョイと乗り越えて、乗り移ることができるようになりました。自ら課題に向かうときの真剣な表情や、大好きなトランポリンで遊んでいるときの笑顔を見ると、とても楽しそうに身体の動きを学習している様子が見えます。

新しく何かができるようになったことや、身体を動かすことが上手になったことに喜びを感じ、そのことを通じて、生活や学習の幅を少しずつ広げていってほしいと思います。

うじ えん-JOYフェスタの「わんぱく運動会」でも、ひとりで坂道を上下りして、くす玉を割ることができました。日ごろの「からだの時間」の学習の成果を発揮して、みんなと一緒に「わんぱく運動会」を楽しむことができたと思います。